

2023年度

事業計画書

2023年3月

学校法人 松山東雲学園

目次

理事長挨拶	1
1. 法人計画の概要	
(1) 設置する学校等	2
(2) 入学者数等の計画	2
(3) 教職員数等の計画	3
(4) 役員・評議員数等	3
2. 事業計画の概要	
(1) 主な事業	3
(2) 大学・短期大学	4
(3) 高等学校・中学校	8
(4) 附属幼稚園	10
(5) 附属保育園	11
3. 2023年度予算編成方針及び予算の概要	
(1) 2023年度予算編成方針	12
(2) 2023年度予算の概要	12
資金収支計算書	14
事業活動収支計算書	15
事業活動収支の構成比率	17

理事長挨拶

一段と厳しさがます高等教育を取り巻く環境の中にあつて、入学者の確保の難しさが、如実に現れてきました。取り分け、本学は女子学生のための学園ということでより困難を強いられています。社会の求めに対応した組織改革に十数年にわたり着手できなかつたことが、大きく影響していると考えられます。ここ8年間は何とか財政の立て直し、学生・生徒及び教職員の安全と安心のための支出と積立率の向上に力を注いできました。いよいよ本学も本格的に社会が強く求めるデジタル社会のための人材育成へ大きく舵をきることを決断しました。そのための支出については、最重点事業として、将来への必要欠くべからざる投資として、全面的に配慮することにしています。本学の命運を左右することになるであろうこのプロジェクトを、何としても成功させなければなりません。

2023年度における予算は、経常収支差額比率5%を必達目標とし、最低限入学定員の確保を主眼として予算編成を行いました。しかしながら、2023年度の入学定員数の確保という点において出鼻をくじかれ、厳しくそれぞれの支出をさらに精査せざるを得ない事態となっています。加えて、社会情勢を勘案すると人件費、光熱水費を始め、諸々の物価が上昇しており、それらに対応するための収入増を何らかの手法で確保しなければなりません。本学の財政は、入学定員が確保できれば、各種の改革は言うに及ばず、財政基盤の確立も可能な状況にあります。学園の社会的評価を高め、学生一人ひとりが本学を選んでよかったと思える教育をすることが、今まさに求められていると思います。教職員一人ひとりが学園への帰属意識を高め、136年の歴史と伝統を継承するために力を発揮することが期待されています。

本年度の予算には、高等教育評価機構の評価を受けるための予算が計上されています。この審査は、学園の社会的評価のバロメーターでもあります。慎重かつ正確なデータを提供し、汚点を残さないことが大切です。

昨年来、大学がバナンスの在り方が大きく問われています。理事、評議員も一人ひとりに与えられた使命と責任を全うし、学園の発展と継続に貢献いただくことが重要になってきました。寄附行為の改正はもとより、理事や評議員の人選にも、従来に増して高等教育に識見を有する人選が必要となっています。

松山東雲学園の存亡の岐路にある現状を教職員、学生、同窓生及び役員が一丸となって打破し、新たな歴史の一ページが加えられることを切望いたします。

以上

1. 法人計画の概要

(1) 設置する学校等

- ① 松山東雲女子大学[開学年月:1992(平成4)年4月]
所在地 愛媛県松山市桑原3-2-1
学長 高橋 圭三
学部等 人文科学部 心理子ども学科[子ども専攻、心理福祉専攻]
- ② 松山東雲短期大学[開学年月:1964(昭和39)年4月]
所在地 愛媛県松山市桑原3-2-1
学長 高橋 圭三
学科 保育科 現代ビジネス学科 食物栄養学科
- ③ 松山東雲高等学校[開校年月:1948(昭和23)年4月]
所在地 愛媛県松山市大街道3-2-24
校長 染田 祥孝
課程等 全日制課程 普通科
- ④ 松山東雲中学校[開校年月:1947(昭和22)年4月]
所在地 愛媛県松山市大街道3-2-24
校長 染田 祥孝
- ⑤ 松山東雲学園附属幼稚園[開園年月:1968(昭和43)年4月]
所在地 愛媛県松山市桑原3-2-1
園長 田中 洋子
- ⑥ 松山しなのめ学園附属保育園[開園年月:2018(平成30)年9月]
所在地 愛媛県松山市桑原3-2-1
園長 山内 司

(2) 入学者数等の計画

2023年度入学予定者数・在籍予定者数

(単位:名)

部門	収容定員	在籍予定者数	入学(募集)定員	入学予定者数
大学	460	308	110	53
短期大学	500	418	250	209
高等学校	420	273	90	71
中学校	150	107	50	37
幼稚園	190	148	-	-
保育園	19	15	-	-
計	1,739	1,269	500	370

※子育て支援保育(2歳児)を含まず

(3) 教職員数等の計画

① 専任教職員

- ア. 大 学:22名(学長1名、教授9名、准教授7名、講師5名)
 - イ. 短期大学:22名(教授8名、准教授9名、講師2名、助教3名)
 - ウ. 高校中学:36名(校長1名、教頭2名、教諭33名)
 - エ. 幼稚園:11名(園長1名、主任1名、教諭9名)
 - オ. 保育園:5名(園長1名、副園長1名、保育士3名)
 - カ. 事務職員:42名(大学・短期大学38名、高校・中学3名、幼稚園1名)
- ※昨年度と同様の人件費施策を勘案して設定

② 非常勤教職員

前年度実績等を勘案して設定

(4) 役員・評議員数等

- ① 理事長:丸木 公介
- ② 理事数:11名(理事長及び外部理事3名含む)
- ③ 監事数:2名
- ④ 評議員数:25名

2. 事業計画の概要

(1) 主な事業

① 特別予算事業

【法人】

- ア. 減価償却引当特定資産・施設拡充引当特定資産への繰入れ
- イ. 勤怠管理システム導入
- ウ. 財務会計システムの改修(電子帳簿保存法対応)
- エ. 学園資金運用

【大学・短期大学】

- ア. 日本高等教育評価機構による認証評価(大学・短大)
- イ. 学務システム基盤更新
- ウ. D-5-3(情報処理実習室)空調機取替工事
- エ. Instagram 運用

【高等学校・中学校】

- ア. グラウンド土入れ
- イ. ピアス館山手の樹木伐採工事

【幼稚園】

- ア. ICT化による保護者との連絡体制の整備(教員用 iPad の購入)

【保育園】

- ア. 室内遊びの充実

(2) 大学・短期大学

大学・短期大学では、①教務、②学生支援、③キャリア支援、④図書・学術情報、⑤情報化、⑥入試、⑦広報及び⑧社会連携・地域貢献について示します。

①教務

ア. 2024 年度 新専攻開設及び星槎大学との連携に向けた準備(大学)

2024 年度女子大学入学生よりスタートとなる新専攻の開設に向けた教育課程の検討及び学則変更等の届出準備を進めます。また、星槎大学との教育連携についても 2024 年度入学生より開始となるため、新専攻開設と併行して準備を進めます。

イ. 2024 年度 長期履修制度の準備(短期大学)

2024 年度短期大学入学生よりスタートとなる長期履修制度について、規程の整備など確実にスタートできるように準備を進めます。

ウ. 認証評価に向けた準備

2023 年度は大学・短期大学の自己点検・評価が実施されるため、万全の状態での臨めるよう、準備・対策をおこないます。また、義務化となった教職課程の自己点検・評価についても並行して準備をおこないます。

②学生支援

前年度に引き続き、with コロナに対応した安心・安全な学生生活を保障し、学生が支障なく、且つ、より充実した学生生活を送ることができるよう、一人ひとりの学生に寄り添った支援を行います。特にコロナにより心身の問題を抱えた学生や経済的に修学困難な学生等に対して、役立つ情報の提供やスムーズな手続き等の支援を行います。また、コロナ時代の経験を活かして、学生会活動やクラブ活動、ボランティア活動などの更なる活性化を図るよう努めます。

国際交流においては、世界のコロナ感染状況に鑑み、日本人学生の海外留学派遣は依然として課題となっています。

③キャリア支援

ア. 就職支援ガイダンス

就職活動が早期化する傾向の中で、各学科・専攻の就職活動に適した日程・内容で実施し、随時就職情報を提供していきます。大学生は3年次の4月、短期大学生は1年次の4月のオリエンテーションからスタートし、自己分析、目標設定、業界・職種研究、履歴書・自己PRの書き方、OGガイダンス、ビジネスマナー講座などを実施し指導します。

イ. キャリアプログラム

できるだけ早い時期に職業観・就職観を確立させるとともに自分を知り、自分を見つめ、自分を高めるためのプログラムです。

公務員を目指す学生には、「公務員受験対策講座(基礎コース・応用コース)」「公務員就職対策模擬試験」「グループディスカッション対策講座」などを順次実施します。

一般企業を目指す学生には、「業界・しごと研究」「就活メイクレッスン」「筆記試験対策講座」などを実施します。また、短期大学食物栄養学科の学生が主な対象者にはなりますが、「基礎力強化講座(使える!基礎計算のマストレッスン)」を実施するなど、きめ細かく個別サポートします。

また、「編入学ガイダンス」「大学院ガイダンス」では、キャリアアップや専門的知識・考え方を深めたい学生のために、他大学から教員と進学した先輩を招き、大学の選び方から受験の仕方まで詳しく説明します。また、管理栄養士を目指す学生のために管理栄養士養成課程のある大学からも担当者を招いてガイダンスを実施します。

ウ. インターンシップ

インターンシップを「在学中に自らの専門的な学びを基に、将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと」として捉え、就業体験を通じて専門知識の深化と職業適性の自覚を目的に「大学コンソーシアムえひめインターンシップ部会」が主催するインターンシップ・プログラムを活用しながら実施します。また、短期大学の現代ビジネス学科では春季休暇中に「春季インターンシップ研修」を実施します。

エ. 「しののめプラス」(社会人講座)

「しののめプラス」(社会人講座)は、在学生、卒業生の「東雲力」を育成するために「学び直し」「学び直し」としての正課外学習を支援する講座です。さらに、本学の諸資源を地域社会に活かし、生涯学習を支援するための講座です。講座の内容としては、資格取得支援、語学、暮らしと創造、子育て支援、ビジネススキルなど多岐にわたっています。

※『東雲力』とは、「自ら考える力」「挑む力」「つながる力」「やり遂げる力」の4つの力とそれぞれを形成する具体的な13の力から構成されています。

オ. 卒業後のサポート「しののめ人財バンク」

卒業後も、それぞれの道でキャリアアップを続けている卒業生のために、すべての教職員が積極的なサポートを継続します。本学の知的・人的資源を活かして本学および地域社会のさまざまな活動に寄与することを目的として2017年に設置された「しののめ人財バンク」では、①就職希望がある卒業生への求人案内、②社会人入試・「しののめプラス」(社会人講座)の案内、③本学で開催される各種イベントの案内を実施し卒業生を支援しています。

④図書・学術情報

図書館では、学生の学修を支援するため以下のような取り組みを実施し、学生のための図書館を目指しています。2023年度は、新型コロナウイルス感染症等による図書館利用スペースの環境整備に配慮して、安全に図書館が利用でき、学生のためになる選書を意識した効果的な図書館運営を目指します。

ア. 図書館の学修支援と利用促進

a ガイダンスの実施

- (a) 新入生図書館オリエンテーション 4月～6月
- (b) 文献検索ガイダンス 依頼により適宜

b 企画展示

- (a) 「学生生活応援図書」
- (b) 「レポート・論文の書き方関連図書」
- (c) 「前年度貸出・閲覧ランキング上位の本」
- (d) 「文学賞・話題賞を受賞した本」
- (e) 「クリスマス関連図書」
- (f) 「人間力UPの本」
- (g) 「ブックハンティングに行ってきました」
- (h) 「映画化された本を集めてみました～DVDとともに～」
- (i) 「季節のおすすめ絵本」(附属幼稚園とのコラボ企画:年5回)

*展示図書リストを図書館ホームページにて紹介

- c 図書館内で利用可能なノートパソコンの貸出
- d ラーニングコモンズ利用予約情報の提供
- e 購入希望図書の所蔵紹介
- f スタンプカードの実施
- g 図書の配架スペース等における環境整備

h 国立国会図書館デジタルコレクション図書館向けデジタル化資料送信サービスの周知・実施

イ. 学生のためになる選書の実施

- a 継続購入図書を見直し、購入希望図書を中心に主体的な選書を実施
- b シラバスに紹介されている参考図書を積極的に購入し、学修をサポート
- c ブックハンティングによる購入希望図書の選書推進
- d 各学科・専攻において購読している学生用図書および学術雑誌の見直し

ウ. 紀要・研究論集の公開

愛媛大学が運営している愛媛地区共同リポジトリ「IYOKAN」が2023年8月末にて運用を停止することから、本学の紀要・研究論集等の学術研究成果物をオープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR）および国立情報学研究所（NII）の共同運営によるJAIRO Cloudに移行し、引き続き公開する予定です。

⑤情報化

情報メディアセンターでは、学内の情報システムに関連した様々な業務を取り扱っています。情報システムについては年次計画を策定し計画的に更新を行うことで、学生・教職員の利便性の向上、セキュリティの維持に努めています。特に、さまざまなクラウドサービスの利用が求められるようになってきていることから、認証基盤の強化を中心に検討を開始します。

ア. 情報教室

- a 授業に支障がないよう設備の維持管理の実施

イ. ネットワーク・サーバ環境

- a サーバ仮想化基盤の更新
- b OSのサポート期限が近付いているサーバの更新
- c 学内のWi-Fi環境の調査および改善の実施
- d サーバ証明書の定期的な更新
- e 認証基盤の強化を検討

ウ. 業務システム

- a 事務系システム更新
- b 事務用PCの計画的な更新

エ. 情報セキュリティ

- a サイバー攻撃に対する防御力の強化
- b 学内ネットワークに接続する全ての端末調査の実施

オ. Webサイト

- a Wordpressサイトの継続的なセキュリティアップデート対応

⑥入試

ア. 学生募集

大学・短期大学ともに「定員確保」を必達目標とします。教職員一人ひとりが学生募集に対する意識を高く持ち、募集につながることは積極的に実行していきます。具体的には、SNSを活用し「全体」から「個」におけるアプローチを強化していきます。在学生の活躍・活動をアピールできるオープンキャンパスや教職員による丁寧な個別対応により参加者からの出願率を上げていきます。また、高等学校での「探究学習」を通じた高校教員との関係づくりの強化を継続し、高大連携を促進させていきます。社会人学生募集においても広報を強化、また、外国人留学生の学生募集についても見直しを図ります。総合型選抜[AO]に注力し、できるだけ多くの志願者を確保し年内入試で7~8割の入学確保を目指します。

イ. 入学者選抜

ミスなく正確かつ迅速な対応を目指します。2022年度入学者選抜より導入した記述式総合問題の検証を継続します。また、2023年度入学者選抜の検証、および、2025年度入試者選抜に係る科目「情報Ⅰ」の取り扱いを含めた入試制度の検討を行います。

⑦広報

大学・短期大学の教育・研究等に関わる事項及び諸行事について広く学外に周知することで、学生募集に寄与します。学園ホームページ委員会、教職協働協議会、入試課、図書館・情報メディアセンター等の学園内組織と連携し、社会情勢の変化に対してアンテナを張り広報活動に努めます。

2023年度は、公式 Instagram における本学の魅力の発信を強化します。教育・研究をはじめとする取り組み全般を発信し、高校生のみならず社会人学生の確保、在学生、教職員、卒業生の帰属意識強化、企業を含む地域社会との連携強化など、地域社会における東雲の存在意義を確立することを目指します。

学園を通じた広報に際しては、学園経営企画委員会に上程することで、全学園的、経営的な観点での協議の機会を得ています。なお、それら調整は事務局が担います。

⑧社会連携・地域貢献

社会連携・地域貢献については、地域の自治体や企業等との連携を密にし、地域に貢献できる大学となるため社会連携活動等を展開していきます。

2023年度は、以下の事業を計画しています。

ア. 社会連携

- α 愛媛県・松山市・愛南町等との包括協定に基づく連携事業の促進
 - ・地方自治体・地元産業界等との包括連携協定の促進
- β 産官学連携事業の拡充・促進
 - ・研修会・講演会等への講師派遣
 - ・各種審議会等への委員派遣

イ. 地域貢献

- α 桑原地区まちづくり協議会との連携
- β 地域密着型の大学・短大として協働を推進

(3) 高等学校・中学校

2023年度の学校目標を昨年度と同様に、「心に愛と希望と勇気を ―未来のために今を生きる―」と定め、キリスト教の精神を人格形成の基礎においた女子教育を行う学校として、「徳・知・体」のバランスのとれた、未来を支える人材を育成します。以下にその実現に向けた具体的な内容を示します。

① 学校経営【学校生活の満足度向上】

卒業時に「入学してよかった」「通わせてよかった」と信頼され、評価される学校づくりを推進します。そのために、育成を目指す資質・能力や、教育課程の編成及び実施に関する方針を示して学校運営を行います。

また、女子教育を軸とする東雲ブランドを構築するため、一人一人の個性を発揮できる大会やコンテストへの積極的なチャレンジを推奨します。

ア. 数値目標設定及び学校評価、学校関係者評価委員会の提案に基づく学校経営の改善

イ. 個性豊かな体育祭、クローバーデー、スプリングフェスティバル等の学校行事の開催

ウ. 中学の「総合的な学習の時間」での茶道(1年生)、華道(2年生)、琴(3年生)の授業実践。高校の「総合的な探究の時間」での茶道・華道(1年生)授業実践、海ゴミの回収ボランティア(2年生)の課外活動の実践

エ. 中学と高校1年生の保健・体育で「なぎなた」の授業を実施

オ. 部活動ではない様々な大会やコンテストへの積極的なチャレンジを支援

② 教科指導の充実【授業力の向上】

ICT環境を整えながら、iPadやSurfaceを活用した授業や特別活動が充実してきたことを受け、「主体的・対話的で深い学び」の趣旨に沿った授業実践を行うため、教員の授業力の向上を目指します。

また、一人一人を大切にす指導を推進するために特別支援教育を拡充します。

ア. 身に付けさせたい力及びその方法の明確化と授業充実

イ. ICT教育の展開(iPadやSurfaceを活用した分かる授業の研究、ICTを活用した焦点授業の実施)

ウ. 研究授業・授業研究の改善(全教員による研究授業の実施と5回以上の授業参観、「自己評価シート」と「授業評価シート」を用いた授業研究)

エ. 生徒による授業評価の活用(年2回)

オ. 特別支援教育の充実(特に、高校における特別支援教育の強化、愛媛県教育総合センター、愛媛大学等と連携してのケース会議の継続、特別支援教育コーディネーターの指名と組織強化、個別の指導計画の作成)

カ. 校内情報セキュリティ対策の強化と生徒のスマートフォンの使い方指導やトラブル対処法に関する研修

キ. 生徒一人1台のPC利用に対応するソフト・ハード面の準備と、新型コロナウイルスやインフルエンザによる休校に即応できるタブレットを用いたりモット授業の研究

③ 進路指導【生徒の可能性を広げる進路指導】

中学で2021年度、高校で2022年度から実施された新教育課程のさらなる研究を進めるとともに、知識や技能の定着だけでなく、大学入試に必要な読解力・思考力・判断力を育成するためのプログラムを全校体制で進路保障の取組について検討・実現します。

また、中学・高校の6年間を通じたキャリア教育を系統的に推進します。

ア. 「総合的な探究(学習)の時間」を利用して、大学からの出張講義などを行い、自ら問題を見つけ、協働して解決までのプロセスを探究していこうとする態度を育て、経験を積ませます。

イ. 本校の特質を生かし、6年間を見通した進路指導計画、キャリア教育について改善し、実施する。中学2年生は「職場体験(インターンシップ)」、中学3年生と高校1年生は東雲女子大学・短期大学のキャンパスツアー、高校1・2年生は東雲女子大学・短期大学教員による特別授業の開催、高校2年生は本校で開催する県内大学・短大・専門学校の説明会の充実等、これまで以上に生徒や保護者のニーズを取り入れる。

また、これ以外にも、「高大接続プログラム」として昨年度始めた「単位の先取り修得」講座を継続して行い、定着させていく。加えて、松山大学や愛媛大学への転学の制度についても周知していく。

ウ. 読解力・発表力・表現力育成のプログラム実施(校内日本語弁論大会、マドンナレシテーションコンテスト校内選考会、クローバーデイ、スプリングフェスティバルにおけるブックトーク等を利用しての発表力の育成)

エ. 英語力向上への取り組み(GTEC や英語検定対策の強化、各種スピーチコンテスト、英語キャンプへの参加)

オ. 進路指導委員会の充実によるきめ細かい進路指導(総合型選抜、学校推薦型選抜の研究と活用、また、従来の指定校推薦における選考規準の見直し、各生徒のポートフォリオ作成の準備。大学共通テスト直後に生徒が志望する大学と学部・学科に必要な科目ごとの全校体制での検討会の実施)

④ 部活動等の活性化【豊かな人間性の育成】

部活動は技術や技能の向上だけでなく、生徒の心身の成長と豊かな学校生活の実現に大きな役割を果たしています。このような観点から、安全かつ効果的な指導を目指すとともに、体罰等の不祥事の根絶に万全を期します。

ア. 県代表、四国代表となる部活動を育成し、全国大会での入賞を目指す。

イ. 生徒の希望する活動を同好会として認めるなど、自発的な活動への助言や支援を行う。

ウ. 女子力向上プログラム(部に類する活動への補助事業)の強化に昨年度以上に努める。

エ. 部活動における体罰等ハラスメントの防止の徹底

⑤ 高大連携【大学理解の機会提供】

松山東雲女子大学・短期大学との連携を中心に、大学、短大への理解を深めさせます。

さらに、これを基盤として、自らの進路開拓に対する意欲を喚起させます。

ア. 松山東雲女子大学・短期大学の良さや強みを理解させることで入学希望者を確保

イ. 高校1、2年生に対し、松山東雲女子大学教員及び・短期大学教員の出張講義を実施(年間15回以上の実施)

ウ. 高校2年生に対して愛媛大学・松山大学・松山東雲女子大学・短期大学、専門学校の教員による説明会を引き続き本校で開催する。(11月実施)

エ. 高校1年生全員の秘書検定受検と短期大学教員による対策講座の開講(12月、1月実施)

オ. 松山東雲女子大学・短期大学進学希望者に対する「高大接続プログラム」として始めた「単位の先取り修得」講義を継続して行い、同大学・短大に進学する優位性について周知し、定着させていく。

⑥ 生徒数の確保【選ばれる学校】

松山東雲中学・高校の女子校としての意義及び生徒の努力や成果を知ってもらいます。そのために、効果的な情報発信に努めるとともに、広報活動を一層強化します。

ア. 学校案内の冊子・オープンスクール等で本校の特色をアピール

イ. 魅力あるホームページ(「校長室便り」「今日の東雲」Official Instagram等)の充実

ウ. 小学校・中学校・塾訪問の強化

エ. PTA・同窓会・地域社会・地元企業と連携して「門前まつり」等の魅力ある行事への積極的参加

オ. 高校入試の時程を県立高校と同様にし、中学入試に英語を加えたことの結果を検証・改善することで、入試問題の質の更なる向上を図る。

(4) 附属幼稚園

3年余りのコロナ禍は、幼稚園にとっても多くの懸案事項を苦起することとなりました。感染予防対策の習慣化や新しい生活様式の定着もその表れです。その最たるものは、出生率の低下による急激な園児数の減少です。また、保護者と保育者、保護者同士が対面による情報交換の機会が減り、母親にとっても子育てへの不安が大きくなっていることに気づかされます。今後、地域の人たちに“選ばれる園”としてどのような運営をすることが大切なのか、方策は何なのかについて早急に考え、取り組まなければなりません。そのためにも課題を洗い出し、情報を集め、方策への検討を進めていきます。

また、昨年度は全国的に幼児施設での安全管理が問われる事件が多くありました。本園においても「命をお預かりしている」との意識を高くして、安全で安心できる園生活が過ごせるよう教職員一丸となって取り組みます。そして、「のびのび遊びすくすく育つ」のキャッチフレーズのもと保育の質の向上、制限や縮小してきた各種行事、しのめ広場、保護者会活動の充実、そして地域への情報発信をして園の見える化に取り組み園児募集につなげていきます。

教職員の採用が難しい状況です。この状況を打開するためにも人員の採用と定着できる“魅力ある職場づくり”を引き続き進めます。さらなるICT化の充実による仕事の効率化を図り、働き方改革を推進します。

① 教職員の人員構成の充実

- ア. 教諭職員の採用と定着
- イ. 預かり保育の専任教諭の配置
- ウ. 子どもに応じたサポート体制の人員配置
- エ. 育児と仕事の両立ができる勤務体制

② 教職員の質の向上

- ア. 全教職員が園児一人ひとりを把握し、丁寧な保育
- イ. 自分の保育を語り合うことや研修会への参加
- ウ. 働き方改革としてICT化の充実による業務の効率化

③ 安全で安心できる園生活

- ア. 管理マニュアルの見直しと安全管理と衛生管理の徹底
- イ. 通園バスへの安全装置の導入
- ウ. 遊具・施設設備等の日々の安全点検
- エ. 自然に触れ、五感を通じた経験ができる環境づくり
- オ. 興味関心を広げ深められる、素材・材料・遊具等の提供

④ 選ばれる幼稚園

- ア. 上記①②③を確立するための継続と努力
- イ. 日々の保育の情報発信とその見える化による園児募集への貢献
- ウ. 社会情勢の変化や保護者のニーズの把握
- エ. 4月に設置されるこども家庭庁の情報取得

⑤ 今後を見据えた幼稚園の在り方を探る

- ア. 認定こども園(幼稚園型・幼保連携型)への移行検討
- イ. 魅力ある幼稚園づくり

(5) 附属保育園

①園児募集及び保育環境の整備

2022年度は13名前後の園児数にとどまっていたことから、2023年度は定員の19名に近づく園児を確保したいと思います。より良い保育環境の整備は継続課題です。

- ア. 0歳児6名、1歳児6名、2歳児は幼稚園へ移行する園児の動向を把握しつつ、随時募集します。
- イ. 園外の保育環境の整備としては、高低差のある多様な植物や昆虫、砂や水など、豊かな自然に触れられる園庭づくりを継続します。
- ウ. 園内においては安全な遊具の充実と既存遊具の安全点検を行います。

②保育力の向上

保育士のスキルアップは重要課題であり、また若い保育士が増えていることもあり、中止していた勉強会、研修会等に、新型コロナウイルス感染状況を考慮しながら、保育士自らが主体的に参加できるよう啓発・推進します。

- ア. 日々の保育の中で、保育士同士が園児一人ひとりの様子を職員会等で共有し、みんなで子どもの育ちを支える関係づくりを目指します。
- イ. 勉強会の内容を検討し、参加したくなる勉強会を工夫します。
- ウ. 保育内容、安全、救命、虐待、災害などの講習、研修への参加も検討します。
- エ. 市内研修や他園との情報交換、オンライン研修等の機会も充実します。

③保育士の充実

今年度8月より、徐々に保育士を補充し、手厚い保育ができるようになってきましたが、定員19名の園児を保育するために必要な人員・人材の充実を目指します。

- ア. 早朝、夕方の保育士の充足を目指します。
- イ. 0歳児6名に必要な保育士を確保します。
- ウ. 明るく、協力的、支え合い、長く勤められる職場環境を整えます。

④保護者との連携

2023年度も単身赴任やひとり親家庭など、様々な事情の中で子育てをしている保護者と共に、子どもの育ちを支え喜び合える関係の構築により、そうしたご家庭をできる限り支えます。

- ア. 保護者の不安や、相談事に丁寧に答えながら信頼関係を築きます。
- イ. 運動会やクリスマスなどの行事を見直し、保護者も共に集い、育ちを伝え、共に喜ぶ場をつくります。
- ウ. 保護者や園児の抱える状況によっては、地域の関連機関との連携により支える体制をつくります。

⑤新型コロナウイルス感染症・アフターコロナを見据えて

新型コロナウイルス感染症に対しては安心・安全な対策を堅持しつつも、感染症の終息を見据えた行事等の検討も行っていきます。

- ア. 日頃より子どもの健康観察、保護者との連絡をしっかりと行っていきます。また、室内の換気、遊具、床、机や椅子などの消毒など、気を緩めず行います。
- イ. 感染症対策の中、子どもと保護者がより良い経験を重ねられる保育内容や行事を工夫します。

⑥学園附属の保育園として

学園を取り巻く環境が厳しさを増す中、地域社会への貢献、学園イメージの向上等、本園が直接的・間接的に学園経営に寄与できるよう努力します。また、子育て支援に係る社会情勢が刻々と変化する中で、同じ附属施設である幼稚園との連携等も視野に入れつつ、本園の存在意義を確認していきます。

3. 2023年度予算編成方針及び予算の概要

(1) 2023年度予算編成方針

- 経常収支差額比率 5.0%以上【私学事業団経営判断指標A3 段階】を必達目標とする。-

① 入学者の確保

ア 入学者等が下記の人数以上になるよう努める。

α 大 学: 入学者 124 名 (定員充足率 80%以上) b 短期大学: 入学者 250 名

c 高 校: 入学者 120 名 (外進 90 名) d 中 学: 入学者 50 名

e 幼稚園: 総 数 190 名 f 保 育 園: 総 数 19 名

② 外部資金の獲得

ア 私立大学等改革総合支援事業(タイプ1及びタイプ3)等の外部資金を獲得する。

③ 予算申請上の留意点

ア 予算申請にあたっては、中長期計画を視野に入れたものとする。

イ 継続事業

申請者は、各予算項目を精査し、優先度、必要度及び費用対効果等を検証した上で申請する。

昨年度に引き続いて実施する事業計画は、その実施方法の改善や複数の業者の見積合わせ等により検討する。

新規事業は、前年度までの予算の組み替えを前提とする。

ウ 重点事業

学内外から高く評価されることが見込まれる諸施策を企画し、各機関ともその計画を予算申請に含めてください。その可否は、予算折衝を通じて決定する。

エ 予算編成時において想定のできない突発的な事業

必要度及び費用対効果等を勘案し、予備費の範囲内で対応する。

④ 2023年度末の積立率

ア 学園の永続的な教育研究活動を実現するため、50%を必達目標とする。

(2) 2023年度予算の概要

① 資金収支予算の概要

ア 資金収入

学生生徒等納付金収入は前年度予算に対し 9,128 万円減の 9 億 775 万円を計上しています。手数料収入は 334 万円減の 1,185 万円を計上し、寄付金収入は 107 万円減の 630 万円を計上しています。

補助金収入は 2,871 万円減の 4 億 1,898 万円を計上しています。その主な要因は 2023 年度学生、生徒、園児数の設定によるものです。付随事業・収益事業収入は 91 万円減の 4,345 万円を計上し、受取利息・配当金収入は 490 万円増の 2,318 万円を計上しています。雑収入は 6,811 万円減の 5,143 万円を計上しています。その主な要因は、定年退職者の減少に伴う退職金財団交付金の減少によるものです。前受金収入は 2,210 万円減の 1 億 8,330 万円を計上しています。その主な要因は、

2023 年度入学者予測数の設定によるものです。その他の収入は 3,520 万円増の 1 億 2,335 万円を計上しています。その主な要因は、前期末未収入金（退職金財団交付金）の増加によるものです。資金収入調整勘定は 5,024 万円減の 2 億 7,309 万円を計上しています。その主な要因は、年度をまたいで納入される退職金財団交付金の減少によるものです。以上により、資金収入合計は、1 億 2,938 万円減の 31 億 3,174 万円の計上となりました。

イ 資金支出

人件費支出は前年度予算に対し 1 億 791 万円減の 7 億 9,094 万円を計上しています。その主な要因は、前年度に比べ定年退職者が減少するためです。なお、予算編成の段階において、賞与は未計上としています。

教育研究経費支出は 927 万円減の 3 億 6,863 万円を計上しています。その主な要因は前年度に実施した高校・中学の照明器具 LED 化等に伴う修繕費の減少によるものです。管理経費支出は 56 万円減の 5,979 万円を計上しています。借入金等利息支出は 60 万円減の 209 万円を計上し、借入金等返済支出は前年度予算と同額の 2,844 万円を計上しています。施設関係支出は D 館情報処理実習室空調機取替工事費用 352 万円を計上しています。設備関係支出は 465 万円増の 1,434 万円を計上しています。その主な要因は、仮想基盤サーバ更新に伴う教育研究用機器備品支出 444 万円増加等によるものです。

資産運用支出は 8 億 5,000 万円増の 10 億 4,700 万円を計上しています。その内訳は、減価償却引当特定資産への繰入が 4,700 万円、施設拡充引当特定資産への繰入が 1 億 5,000 万円、有価証券購入支出が 8 億 5,000 万円です。その他の支出は 97 万円減の 489 万円、予備費及び資金支出調整勘定は前年度予算と同額を計上しています。以上により、収入の部合計から前年度繰越支払資金を差し引いた実質的な資金収入合計額 14 億 9,652 万円に対して、支出の部合計から翌年度繰越支払資金を差し引いた実質的な資金支出合計額 23 億 6,476 万円の計上となり、翌年度繰越支払資金は前年度予算と比べ 8 億 6,824 万円減の 7 億 6,698 万円となります。

②事業活動収支予算の概要

ア 事業活動収支

事業活動収入は 14 億 6,295 万円、事業活動支出 14 億 9,295 万円で基本金組入前当年度収支差額は 3,000 万円の支出超過となります。基本金組入により当年度収支差額は 6,207 万円の支出超過となり、翌年度繰越収支差額は 35 億 425 万円の支出超過となりますが、現金の動きを伴わない減価償却額や基本金組入を含むため、学園の運営において特に問題はありません。

イ 事業活動収支の区分別収支

学校法人の本業である教育活動収支は、教育活動収入 14 億 3,977 万円、教育活動支出 14 億 4,086 万円で、教育活動収支差額 109 万円の支出超過となります。教育活動外収支は、教育活動外収入 2,318 万円、教育活動外支出 209 万円で、教育活動外収支差額 2,109 万円の収入超過となります。教育活動収支差額と教育活動外収支差額を合わせた経常収支差額は 2,000 万円の収入超過となります。また、経常収支差額比率は 1.4%となり、私学事業団経営判断指標 A3 段階（経常収支差額比率が黒字）を達成する見込みです。特別収支は、特別収入、特別支出ともに 0 円と見込んでいます。

なお、2023 年度末の積立率は、52.5%を達成する見込みです。

資金収支計算書

2023年 4月 1日から

2024年 3月 31日まで

(単位：千円)

収 入 の 部					支 出 の 部					
科 目	予 算	前年度予算	増減	備考	科目	予 算	前年度予算	増減	備考	
2023年度学生・生徒・園児予定数で設定					定年退職者の減少					
学生生徒等納付金収入	907,750	999,031	△ 91,281		人件費支出	790,941	898,852	△ 107,911		
手数料収入	11,854	15,194	△ 3,340		LED工事費の減少					
寄付金収入	6,300	7,370	△ 1,070		教育研究経費支出	368,634	377,904	△ 9,270		
2023年度学生・生徒・園児予定数で設定					D館情報処理実習室空調機取替工事の実施					
補助金収入	418,982	447,692	△ 28,710		管理経費支出	59,789	60,349	△ 560		
資産売却収入	0	0	0		借入金等利息支出	2,091	2,688	△ 597		
付随事業・収益事業収入	43,454	44,365	△ 911		借入金等返済支出	28,440	28,440	0		
受取利息・配当金収入	23,177	18,280	4,897		仮想基盤サーバ更新費用の増加					
定年退職者の減少					施設関係支出	3,520	0	3,520		
雑収入	51,430	119,540	△ 68,110		有価証券購入費用の計上					
2023年度入学者予測数で設定					設備関係支出	14,344	9,693	4,651		
前受金収入	183,302	205,399	△ 22,097		資産運用支出	1,047,000	197,000	850,000		
前期末未収入金収入の増加					その他の支出					
その他の収入	123,352	88,153	35,199		その他の支出	4,892	5,861	△ 969		
期末未収入金の減少					〔予備費〕					
資金収入調整勘定	△ 273,085	△ 323,327	50,242		資金支出調整勘定	△ 4,892	△ 4,892	0		
前年度繰越支払資金	1,635,224	1,639,422	△ 4,198	①	翌年度繰越支払資金	766,981	1,635,224	△ 868,243	②	
収入の部合計	3,131,740	3,261,119	△ 129,379		支出の部合計	3,131,740	3,261,119	△ 129,379		
						支払資金の増減額	△ 868,243	△ 4,198	△ 864,045	② - ①

事業活動収支計算書

2023年 4月 1日から

2024年 3月 31日まで

(単位：千円)

		科 目	予 算	前年度予算	増減	備考
教育活動収支	事業活動収入の部	学 生 生 徒 等 納 付 金	907,750	999,031	△ 91,281	
		手 数 料	11,854	15,194	△ 3,340	
		寄 付 金	6,300	6,370	△ 70	
		経 常 費 等 補 助 金	418,982	447,692	△ 28,710	
		付 随 事 業 収 入	43,454	44,365	△ 911	
		雑 収 入	51,430	85,824	△ 34,394	
		教 育 活 動 収 入 計	1,439,770	1,598,476	△ 158,706	
事業活動支出の部	事業活動支出の部	人 件 費	778,194	845,587	△ 67,393	
		教 育 研 究 経 費	599,133	606,912	△ 7,779	
		管 理 経 費	63,534	64,089	△ 555	
		教 育 活 動 支 出 計	1,440,861	1,516,588	△ 75,727	
教育活動収支差額			△ 1,091	81,888	△ 82,979	①
教育活動外収支	事業活動収入の部	受 取 利 息 ・ 配 当 金	23,177	18,280	4,897	
		教 育 活 動 外 収 入 計	23,177	18,280	4,897	
	事業活動支出の部	借 入 金 等 利 息	2,091	2,688	△ 597	
		教 育 活 動 外 支 出 計	2,091	2,688	△ 597	
教育活動外収支差額			21,086	15,592	5,494	②
経常収支差額			19,995	97,480	△ 77,485	③(①+②)
経常収支差額比率			1.4%	6.0%	△ 4.7%	

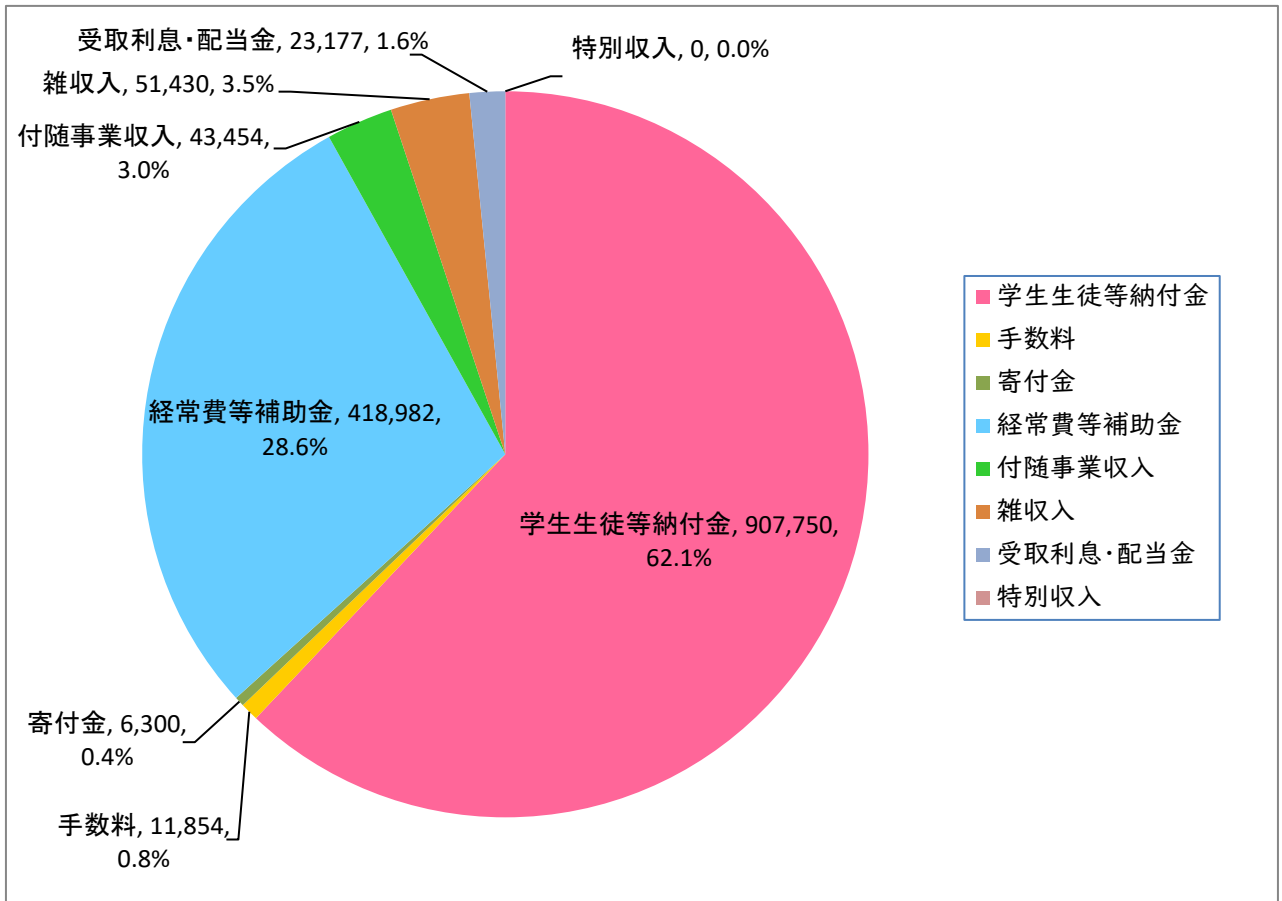
	事業活動収入の部	科目	予算	前年度予算	増減	備考
		資産売却差額	0	0	0	
		その他の特別収入	0	1,000	△ 1,000	
		特別収入計	0	1,000	△ 1,000	
特別収支	事業活動支出の部	資産処分差額	0	0	0	
		その他の特別支出	0	0	0	
		特別支出計	0	0	0	
		特別収支差額	0	1,000	△ 1,000	④
		[予備費]	50,000	50,000	0	⑤
		基本金組入前当年度収支差額	△ 30,005	48,480	△ 78,485	⑥ (③+④-⑤)
		基本金組入額合計	△ 32,060	△ 28,440	△ 3,620	⑦
		当年度収支差額	△ 62,065	20,040	△ 82,105	⑧(⑥+⑦)
		前年度繰越収支差額	△ 3,442,189	△ 3,462,229	20,040	
		基本金取崩額	0	0	0	
		翌年度繰越収支差額	△ 3,504,254	△ 3,442,189	△ 62,065	

(参考)

事業活動収入計	1,462,947	1,617,756	△ 154,809	
事業活動支出計	1,492,952	1,569,276	△ 76,324	
経常収入計	1,462,947	1,616,756	△ 153,809	
経常支出計	1,442,952	1,519,276	△ 76,324	

事業活動収入14.6億円の構成比率

(単位:千円)



事業活動支出14.9億円の構成比率

